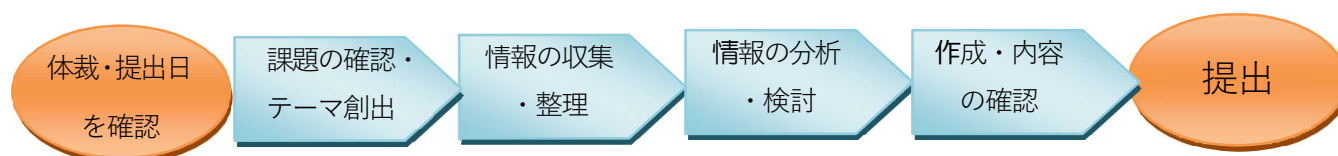


学術研究倫理ガイド

レポート・卒業論文を作成する際の注意事項 ―研究倫理／Research Ethics を守って―

大学では、「自分で学び、考える」という能動的な学習をすることが重要視されるため、レポートによる課題が課せられます。レポートとは、「これまでの研究成果を参考にしながら客観的事実やデータを分析し、自分の考察を述べるもの」です。レポート・卒論執筆をはじめとする研究活動に際しての制約・決まりごとは「研究倫理／Research Ethics」と呼ばれ、大学を含めた研究機関で研究を行うすべての研究者（教員・院生・学部生）が守らなければならないものとされています。

レポート・卒論・修論作成の流れ



情報収集のツール

レポート・卒論作成にあたっては、先行研究やテーマ課題にかかわる情報収集が必須です。

図書館やインターネットを活用し、研究に必要な情報を収集しましょう。

図書館

- ・図書館内の蔵書を探す →OPAC (Online Public Access Catalog)
- ・資料収集に関するアドバイスを受ける →図書館 2 階・レファレンスカウンターへ

インターネット

- ・論文を探す →CiNii Reserch、大学契約のオンラインデータベース
- ・ほかの大学や図書館の蔵書を探す →CiNii Books

京都橘大学図書館では、図書、雑誌のほか、オンラインデータベースを数多く提供しており、インターネットを利用して学習・研究することができます。

オンラインデータベースは、図書館内の図書や雑誌と同様、最も信頼性の高い情報収集手段なので、ぜひ学習・研究に活用してください。資料収集の相談は、図書館レファレンスカウンターまで。

・インターネット情報を使用する際は、その情報の「真偽」に注意

- ・インターネット上には、信ぴょう性の低い情報が氾濫しているため、検索エンジンで調べた結果を容易に用いることはおすすめしません。
- ・情報に参考文献や脚注がつけられている場合は、それらの資料（原典・一次資料）まで確認し、信頼性を判断しましょう。
- ・一次資料は、図書館に所蔵されていることもありますので、インターネット上の情報と、図書館の資料をうまく組み合わせて利用することが、効率的な文献探しへの近道となります。
- ・統計データなどのデータ類は、公的機関の公式サイトなどが、信頼性が高いといえます。

注意すること

レポートにおける論述・論証は、先行研究で明らかになっていることや、論じられていることを引用しながら進めます。論述方法・引用方法を間違えると、「ねつ造」「改ざん」「盗用」とみなされ、その論文の信頼性が大きく損なわれることになります。現在、大学研究の信頼性が揺らぐような事件が多発しています。レポート・卒論の信頼性を損なうことは、研究倫理が欠けているとみなされ、大学の信用そのものにも影響を及ぼします。

【論述・論証する際の注意点】

- ・論証の根拠となる「事実」が信頼に足るかどうかを見極める。
- ・調査・実験のデータは適切な方法で得られたものか（偏ったものではないか）、結論を導くのに十分かなど。
*信頼性の高さ＝「一次資料」>「二次・三次資料」
- ・反対意見や例外事例がないかを確認し、あった場合は隠さずに提示する。
*提示した上で反証すると、自身の主張に説得力を加えることができる。
- ・論じた内容に、不足・飛躍がないかを、いま一度確認する。

【引用する際の注意点】

論述内容が「先行研究によって導き出されたもの」なのか、「自分の意見」なのか明確にすることが大切。

*引用の方法は、学問領域によって異なることがあります。担当教員に確認しましょう。

例) ・「 」でくくる。

- ・文章が長い場合は、2字下げで数行にわたり原文通りに提示する。
- ・要約して掲げ、「～と〇〇は指摘している」などの文言を付け加える。 …など。

以上のように、どこからどこまでが引用箇所かを明記した上で、各箇所出典を挙げたり、脚注や文章末に文献一覧を付記するなどして、引用元を明記することが必要です。

・レポート・卒論・修士論文作成上、特に注意しなければいけない事項

- 【ねつ造】** 実際には調査や実験をしていないにもかかわらず、それらしいデータを勝手に作りあげ、あたかも調査や実験の結果得られたように発表すること。
- 【改ざん】** 調査や実験で得られた結果を自分の研究にとって都合のよい内容に加工したり、過去の別の調査や実験で得た結果を、あたかも新しい調査や実験の結果のように記載したりすること。
- 【盗 用】** 参考資料の丸写しやWEB上の情報のコピー＆ペーストのような明らかな著作権の侵害だけでなく、他人の説をあたかも自分が論じているかのような体裁をとること。

参考資料： ・「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」／2014／文部科学省

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/26/08/1351568.htm

- ・「科学の健全な発展のために一誠実な科学者の心得」／2015／日本学術振興会
<https://www.jsps.go.jp/j-kousei/data/rinri.pdf>